



信州大学 (長野県)



豊かな自然。地域とのふれあい。実践に則した日本語が学べます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

信州大学は8学部（人文、教育、経法、理、医、工、農、繊維）、5大学院研究科（総合人文社会科学、教育学、総合理工学、医学系、総合医理工学）を擁する総合大学です。松本・長野・上田・伊那に5つのキャンパスがあり、学部学生約9,000名、大学院生約2,000名、計11,000名が学んでいます。そのほかにグローバル化推進センター、6つの研究領域で特色のある最先端の研究を行う先鋭領域融合研究群などの教育・研究施設があります。キャンパスのある各地域は、豊かな自然環境と伝統ある教育環境に恵まれ、独自の発展をみせています。



松本キャンパスの中央図書館

それぞれの地域の発展のために教育的にも経済的にも大きな貢献をしており、日本の大学ランキングの「地域貢献度」では2012年から4年連続、そして2019年2020年にも日本一になりました。

② 国際交流の実績

海外の大学との学術交流協定(2021年3月現在)
大学間協定：120大学(35か国)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2021年：留学生数313人、日研生5人
2020年：留学生数365人、日研生2人
2019年：留学生数375人、日研生5人

④ 地域の特徴

本学は、「信州」という日本国内で有名な山岳リゾートに位置しており、日本のほぼ中央にあります。高い山々に囲まれ、四季折々の景色が美しく自然豊かな地域です。国立公園や高原、山々など、自然の中に簡単に入って楽しんだり、フィールドワークを行うことができます。歴史を感じさせる古城や神社仏閣が多くあるほか、豊富な温泉も長野県の大きな特徴の一つです。1998年に冬季オリンピックが長野市で開催されたように、冬はウィンタースポーツの中心地としても有名です。



松本城



紅葉の北アルプス

日本語・日本文化研修留学生(以下、日研生)が学習する松本キャンパスは東京までは電車で2時間半、名古屋までは2時間、京都までは2時間40分と大都市への移動も簡単です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

信州大学は日本語教育が充実しており、レベル別指導やアカデミックな日本語の指導まで幅広く行っています。また、日本文化についても学習機会が多くあります。さらに、人文・経済・理学の専門科目の受講も、条件がそろえば可能です。



授業の様子

また日研生が自国の紹介を行うことにより、日本人学生の国際理解進展につながり、お互いに刺激あっています。それにより日研生の出身国に留学する日本人学生が増え、また日研生が信州に戻るなどプラスの循環が見られます。これからの日研生にも同様の活躍を期待しています。



授業で着物体験

多文化共生と国際交流の祭り

③ 受入定員

5名（大使館推薦3名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本人と一緒に授業が受けられる人
- ・辞書を引きながら日本語の資料が読める人
- ・自分の専門分野について日本語で説明できる人
- ・日本人と積極的に関わる意志がある人
- ・日本人に自国の文化を紹介する意志がある人

⑤ 達成目標

CEFRの「C1」程度を目標としますが、自分の専門分野について日本語での効果的なスピーチができ、論文執筆ができれば達成とみなします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2022年9月下旬 ～ 2023年9月下旬
(2022年10月1日 ～ 2023年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2022年10月 ～ 2023年9月



⑧ 研修・年間スケジュール（変更になることがあります）

9月下旬	渡日
10月	日研生ガイダンス
10月	浅間温泉たいまつ祭り（日本三大奇祭）
12月	多国籍料理パーティー
1月	1学期目のテストおよびレポート
4月	松本市内見学のバス・ツアー
6月	多文化共生と国際交流の祭り（一般の日本人と共に祭りを創る）
7月	全学国際交流旅行（1泊）
7月	2学期目のテストおよびレポート
8月	ICP（国際共修）発表会
8月	松本ほんぼん（松本最大の祭り）
9月	修了式・帰国



⑨ コースの修了要件

以下の条件を満たせば修了となります。

- 1) 必修科目を含む12科目14単位以上を修得する。
- 2) 国際共修・国際理解に関する講座に参加する。
- 3) ICP（国際共修）発表会で日本人学生と共にグループ・プレゼンテーションをする。

修了要件をクリアした者は、修了証書を授与します。帰国後になりますが、信州大学の発行する成績証明書、単位認定後に郵送します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の概要

⑦ コースの概要

日本語と日本人との共修授業や講座を中心に学びます。論文作成指導では、各自のテーマについて、論文を日本語で執筆し、成果をまとめて提出します。

① 修了研究

テーマに沿って、留学生と共に学ぶことを希望する日本人や他の留学生とチームを組んで進めます。研究方針、データ集め、結果の分析等を行い、グループの意見をとりまとめ、最終プレゼンに臨みます。

他の学生と密接な交流ができます。



ICP（国際共修）発表会の様子

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目

⑦ 日本語作文

- ① 一般学生向けに開講する教養科目、専門科目
2学期目に留学生に特化していない授業を3科目（6単位）以上受講することを必須とします。

日系人枠で日本語レベルが低いと判断した場合、必修科目を一部変更する場合があります。

II) 選択科目

以下の授業を受講することを推奨しています。

- ・「国際理解と多文化共生を考える」
日本人との共修による多文化共生等の学習
- ・「グローバル人材カゼミ」
様々な活動を通じて多様性について学ぶ
- ・「日本社会と日本人」
就職活動やビジネス等、日本の様々な側面の紹介および議論
- ・「武道伝統文化実習」
茶道、琴、剣道、空手など

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

信州大学にある教育学部附属小学校や中学校の国際理解講座の授業に参加します。小・中学生と交流しながら日本の初等教育についても学び、皆さんの国の教育を小中学生に伝えます。



附属中学校での国際共修

4) 日本人学生との共修科目及び具体的な内容 「国際理解と多文化共生を考える」

この授業は日本人学生と留学生がほぼ半数の50-70名で受講するもので、日本人・留学生同数の小グループ（4, 5名）を形成します。授業は、講師が日本や世界の多文化共生に関する情報や直近の世界的話題を提示し、問題提起した後にディスカッションをする形で進みます。毎週の課題と小テスト、グループ全体でのスライド作成、期末レポート等の課題を通じて学習を深めます。



安曇野での日本人との交流会

グローバル化推進センターが開講する授業については、ホームページで、詳しく調べることができます。

⑩ 指導体制

・指導教員

日研究生はグローバル化推進センターの所属となり、専任教員が学業面・生活面について個別指導を行っています。

専任教員： 佐藤友則

・協力教員等

人文学部等、専門分野の協力教員と連携して多岐にわたる専門の学習をサポートしています。

・チューター

日本人学生がチューターとして、皆さんをサポートします。来日時の煩雑な手続きや学習面、生活面の相談相手、観光スポットの紹介など頼れる相談相手です。



国宝松本城と留学生たち

■ 宿 舎

① 宿舎状況

キャンパスまで歩いて10分以内のアパートを紹介しています。エアコンが設置され、インターネット環境も整っています。空室があれば、国際交流会館を案内することも可能です。

② 宿舎費

32,000円～35,000円/月（インターネット無料、光熱費は別）
入居時初期費用：約10,000～48,000円/年（共益費ほか）
*費用は変更の可能性があります。

③ 設備

家具・家電製品・ガスコンロがついています。身の回りのものだけ持ってくれば生活ができます。自炊可能です。



■ 修了生へのフォローアップ

信州大学の日研究生プログラム修了生とは、信州大学国際交流同窓会を通じて連絡を取り合っています。同窓会の本部は松本、支部は、韓国、中国(北京&上海&石家荘)、タイ、モンゴル、ベトナム、マレーシアにあり、将来的には欧州、米、インドネシアなどにも展開が予想されています。

また、メールやニュースレターで頻繁に情報のやり取りを行い、世界各地で開催される国際同窓会に招待しています。修了生の中には大学教員になっている人もおり、その修了生の勤務する欧州の大学と信州大学の大学間交流協定締結が実現したり、その大学から新たな日研究生が来学するなどの成果があがっています。また、卒業後に長野県の企業に就職し、母国と長野県の懸け橋になっている者や、休暇で松本を訪問し、自分が勤める会社について日本人学生にプレゼンをする者もいます。



国際交流同窓会・松本の様子



キャンパスを歩く留学生と日本人学生



「まつもとぼんぼん」祭りの踊りの練習

■ 問い合わせ先

<担当部署>

国際部国際企画課

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL +81-263-37-2198

FAX +81-263-37-2181

E-mail: gecschlr@shinshu-u.ac.jp

<担当教員>

グローバル化推進センター 佐藤友則

E-mail: stomo@shinshu-u.ac.jp

<ウェブサイト>

グローバル化推進センターホームページ:

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/>

信州大学ホームページ:

<https://www.shinshu-u.ac.jp/>